

The Decade of the Public Theater in Japan

# 公共劇場の10年

舞台芸術・演劇の公共性の現在と未来

伊藤裕夫・松井憲太郎・小林真理 [編]

■体裁 A5判・並製・400頁

■定価 本体 2800 円 + 税

■発行 美学出版

ISBN978-4-902078-22-0

「劇場」「演劇」「舞台芸術」の  
公共性とはなにか。

これからの劇場は、どのような方向性を模索していかなければならないのか。  
水戸芸術館から20年。静岡県舞台芸術センター、世田谷パブリックシアター、新国立劇場等の開館・開場から10余年。  
劇場法についての議論も活発化する中、さまざまな視点から「公共劇場」を考える。

## 【目次】

### 第1章 劇場または舞台芸術・演劇と公共性

「公共」劇場とは  
公共性の出現  
ドイツの公共劇場の成り立ち

### 第2章 日本における公共劇場の10年

公共劇場のための演劇論 — 水戸芸術館  
「公共劇場」を問いかけてつづける — 世田谷パブリックシアター  
演劇、劇場は、地域のために何ができるのか — 鳥の劇場  
地方都市における創造型文化施設をめぐる — 山口情報芸術センター  
公共政策としての演劇・劇場政策 — 静岡県舞台芸術センター (SPAC)

### 第3章 海外における公共劇場の現状と課題

フランスの舞台芸術環境  
「劇場監督」制度からみたドイツの公共劇場  
シンガポール演劇と公共圏 — 統制とクリエイティビティの「共犯関係」

### 第4章 これからの公共劇場・劇場法についての課題

演劇の公共圏へ、ふたたび  
専門家と文化施設  
昨今の「劇場法」論議を廻って

## 資料編

シンポジウムの記録  
「公共劇場の10年—舞台芸術・演劇の公共性の現在と未来—」パネルディスカッションより  
芸術活動と社会の関係を考えるシンポジウム「地方の現場から演劇の未来を考える」より  
「劇場法(仮称)」を巡る議論の時系列的推移  
— 今までの議論と方向性、出されている考え方について  
公共劇場の10年関連年表

## 【執筆者紹介】

伊藤裕夫 (富山大学芸術文化学部教授)  
松井憲太郎 (演劇批評家/富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ館長)  
小林真理 (東京大学大学院人文社会系研究科准教授)  
松本小四郎 (水戸芸術館演劇部門芸術監督)  
恵志美奈子 (世田谷パブリックシアター)  
中島諒人 (演出家/鳥の劇場主宰)  
岸 正人 (神奈川芸術劇場)  
鈴木滉二郎 (静岡文化芸術大学講師)  
藤井慎太郎 (早稲田大学文学学術院教授)  
丸本 隆 (早稲田大学法学学術院教授)  
滝口 健 (シンガポール国立大学)

美学出版

Tel. 03-5937-5466 Fax. 03-5937-5469

URL <http://www.bigaku-shuppan.jp>

E-mail: [info@bigaku-shuppan.jp](mailto:info@bigaku-shuppan.jp)

全国のリアル書店・ネット書店にてお求めいただけます。在庫がない場合はお近くの書店、または小社までご注文下さい。